



# Red Hat Hybrid Cloud Console 1-latest

## Red Hat サービスのクラウドインテグレーション 設定

Red Hat アカウントをパブリッククラウドにリンクする方法



# Red Hat Hybrid Cloud Console 1-latest Red Hat サービスのクラウドインテグレーション設定

---

Red Hat アカウントをパブリッククラウドにリンクする方法

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

クラウドインテグレーションは、インテグレーションへの直接接続または間接接続のいずれかで、サービスが Red Hat Hybrid Cloud Console 外のデータを収集する方法を提供します。

---

## 目次

第1章 HYBRID CLOUD CONSOLE でのクラウドインテグレーション .....	3
第2章 インテグレーションを管理するためのユーザーアクセスを設定する .....	4
2.1. HYBRID CLOUD CONSOLE での CLOUD ADMINISTRATOR グループの作成と設定 .....	4
2.2. ユーザーアクセスグループの編集または削除 .....	5
第3章 HYBRID CLOUD CONSOLE へのクラウドインテグレーションの追加 .....	6
3.1. AMAZON WEB SERVICES (AWS) インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE .....	6
3.2. MICROSOFT AZURE インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE .....	8
3.3. GOOGLE CLOUD インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE .....	11
3.4. ORACLE CLOUD インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE .....	13
第4章 HYBRID CLOUD CONSOLE への RED HAT インテグレーションの追加 .....	15
4.1. OPENSIFT CONTAINER PLATFORM インテグレーションの追加 .....	15
第5章 HYBRID CLOUD CONSOLE でのインテグレーションの管理 .....	17
第6章 クラウドインテグレーションの参考資料 .....	18
多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	19
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	20



# 第1章 HYBRID CLOUD CONSOLE でのクラウドインテグレーション

一部のパブリッククラウドとサードパーティーアプリケーションを Hybrid Cloud Console に統合できます。サードパーティーアプリケーションを統合してイベント通知を受信する方法について、詳細は [Red Hat Hybrid Cloud Console とサードパーティーアプリケーションのインテグレーション](#) を参照してください。

Red Hat Hybrid Cloud Console 上のクラウドインテグレーションは、Hybrid Cloud Console サービスにデータを提供するサービス、アプリケーション、またはプロバイダーです。Hybrid Cloud Console 上のサービスは、インテグレーションサービスを使用してパブリッククラウドプロバイダーおよび他のサービスまたはツールに接続し、サービスの情報を収集します。

次のパブリッククラウドを Hybrid Cloud Console と統合できます。

- Amazon Web Services (AWS)
- Microsoft Azure
- Google Cloud
- Oracle Cloud

Red Hat OpenShift Container Platform 環境をクラウドインテグレーションとして Hybrid Cloud Console に接続して、コンソールの Cost Management サービスで使用することもできます。

Hybrid Cloud Console **Settings** メニューの [Integrations](#) ページから、クラウドと Red Hat インテグレーションを追加および管理できます。

**Integrations** サービスはウィザードを使用して、クラウドと Red Hat インテグレーションを Hybrid Cloud Console に接続するための支援を提供します。クラウドインテグレーションの場合、プロバイダーをコスト管理、Red Hat Insights イメージ、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 管理バンドルなどの Red Hat サービスに関連付けることができます。Red Hat インテグレーションの場合は、Red Hat OpenShift Container Platform を追加できます。サービスの関連付けは、クラウドインテグレーションではオプションですが、Red Hat インテグレーションでは必須です。

## 第2章 インテグレーションを管理するためのユーザーアクセスを設定する

クラウドと Red Hat インテグレーションを設定するには、Cloud Administrator ロールを持つグループのメンバーである必要があります。このグループは、組織管理者によってユーザーアクセスで設定される必要があります。Red Hat Hybrid Cloud Console で、組織管理者は以下の基本手順を実施します。

1. Cloud Administrator のユーザーアクセスグループを作成します。
2. グループに Cloud Administrator ロールを追加します。
3. メンバー (アカウントアクセスを持つユーザー) をグループに追加します。

### Organization Administrator

Organization Administrator は、Cloud Administrator のユーザーアクセスグループを設定してから、Cloud Administrator ロールおよびユーザーをグループに追加します。

### Cloud Administrator

Cloud Administrator は、サービスがクラウドおよび Red Hat インテグレーションと対話する方法を設定します。Cloud Administrator は、Hybrid Cloud Console で使用可能なインテグレーションを追加、削除、編集できます。

### 関連情報

- Hybrid Cloud Console でのユーザーアクセスの詳細は、[ロールベースアクセス制御 \(RBAC\) のユーザーアクセス設定ガイド](#) を参照してください。

## 2.1. HYBRID CLOUD CONSOLE での CLOUD ADMINISTRATOR グループの作成と設定

Red Hat アカウントの組織管理者は、Cloud Administrator ロールを持つグループを作成し、そのグループにメンバーを追加します。このグループのメンバーは、Hybrid Cloud Console でクラウドおよび Red Hat インテグレーションを管理できます。

### 前提条件

- 組織管理者権限を持つユーザーとして Hybrid Cloud Console にログインしている。
- 組織管理者でない場合は、**User Access administrator** のロールが割り当てられているグループのメンバーである。

### 手順

1. **Settings > Identity & Access Management** をクリックします。
2. **Identity & Access Management** で、**User Access > Groups** をクリックします。
3. **Create group** をクリックします。
4. グループ名 (例: **Cloud Administrators**) と説明を入力し、**Next** をクリックします。
5. ロールのリストで **Cloud Administrator** を探し、その横にあるチェックボックスを選択して、**Next** をクリックします。



6. このグループにメンバーを追加します。
  - a. 個々のユーザーを検索するか、ユーザー名、メール、またはステータスでフィルタリングします。
  - b. グループに追加するユーザーのチェックボックスを選択し、**Next** をクリックします。
7. 詳細を確認して、**Submit** をクリックしてグループの作成を終了します。

#### 検証

- 新しいグループが **Groups** ページに一覧表示されていることを確認します。

## 2.2. ユーザーアクセスグループの編集または削除

Red Hat Hybrid Cloud Console で既存のユーザーアクセスグループに変更を加えることができ、不要になったグループを削除できます。

#### 前提条件

- 組織管理者権限を持つユーザーとして [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) にログインしている。
- 組織管理者でない場合は、**User Access administrator** のロールが割り当てられているグループのメンバーである。

#### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings > Identity & Access Management > User Access > Groups](#) でグループ名を探します。
2. グループ名の行の右端にあるオプションアイコン (⋮) をクリックし、**Edit** または **Delete** をクリックします。
3. 変更して保存するか、グループを削除します。

## 第3章 HYBRID CLOUD CONSOLE へのクラウドインテグレーションの追加

Amazon Web Services (AWS)、Google Cloud、Microsoft Azure、または Oracle Cloud アカウントを Red Hat Hybrid Cloud Console のクラウドインテグレーションとして接続すると、Hybrid Cloud Console でホストされているサービスがパブリッククラウドプロバイダーからのデータを使用できるようになります。

### 3.1. AMAZON WEB SERVICES (AWS) インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE

Red Hat Hybrid Cloud Console で、Amazon Web Services (AWS) アカウントを次のサービスに接続できます。

#### コスト管理

AWS アカウントをコスト管理に接続して、クラウドのコストを追跡します。Cost Management Service を使用して、次のような財務関連のタスクを実行できます。

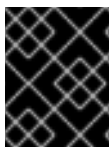
- リソースおよびコストの使用を可視化、理解、および分析
- 今後の消費を予測し、予算との比較
- リソースおよび消費の最適化
- 詳細な分析を行うための使用パターンの特定
- コストおよびリソースデータを活用できるサードパーティーツールとの統合

#### RHEL 管理バンドル

AWS アカウントを Hybrid Cloud Console の RHEL 管理バンドルに接続して、AWS で Red Hat 製品のサブスクリプションを使用します。

RHEL 管理バンドルにより、パブリッククラウドに Red Hat 製品をデプロイメントするのに役立つ次のような追加機能へのアクセスが許可されます。

- Red Hat ゴールドイメージ: AWS で Red Hat クラウドイメージを使用し、時間単位で支払う代わりに独自のサブスクリプションを持ち込むことができます。
- 高精度のサブスクリプションウォッチデータ: サブスクリプションウォッチで正確なパブリッククラウドの使用状況データを表示できます。
- 自動登録: これにより、プロビジョニング時にクラウドインスタンスが [console.redhat.com](https://console.redhat.com) に自動的に接続できるようになり、Red Hat Insights サービスを使用できるようになります。



#### 重要

RHEL 管理を使用するには、まず Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。

#### Red Hat Insights のイメージ

AWS アカウントに接続して、ハイブリッドクラウド環境で仮想マシンとしてカスタマイズされたイメージを構築および起動します。

このワークフローでは、すべての Red Hat サブスクリプションに含まれる Red Hat Insights イメージサービスを使用して、AWS で Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムをデプロイおよび管理します。

## アプリケーションなし

あるいは、Hybrid Cloud Console サービスに接続せずに AWS インテグレーションを追加し、後で1つ以上のサービスを選択することもできます。

### 3.1.1. Amazon Web Services (AWS) アカウントのクラウドインテグレーションとしての追加

Amazon Web Services (AWS) アカウントをクラウドインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続すると、AWS データを Hybrid Cloud Console サービスでできるようになります。AWS インテグレーションを追加した後、Hybrid Cloud Console の **Integrations** ページから AWS およびその他のインテグレーションを表示および管理できます。

AWS アカウントをインテグレーションとして追加する場合、設定モードには2つの選択肢があります。

- **アカウント認証 (推奨)**
- **手動による設定**

Red Hat では、設定と管理を容易にするために、**Account authorization** オプションを使用することを推奨します。このオプションでは、AWS インテグレーションを自動的に設定および管理するために、Hybrid Cloud Console に AWS アカウントの認証情報 (アクセスキー ID と秘密キー ID) を入力する必要があります。**Account authorization** オプションを使用すると、設定中の1つのステップで AWS インテグレーションを1つ以上の Hybrid Cloud Console サービスに接続できます。

Hybrid Cloud Console で AWS 認証情報を提供したくない場合は、**Manual configuration** を選択し、ウィザードの手順に従って AWS アカウントをインテグレーションとして手動で設定し、Hybrid Cloud Console サービスに接続できます。

#### 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- Hybrid Cloud Console で使用する、次のアイデンティティおよびアクセス管理 (IAM) ロールを持つ AWS アカウントにアクセスできます。
  - **CreatePolicy**
  - **CreateRole**
  - **AttachRolePolicy**
  - **GetPolicy**
  - **GetRole**
- アカウント認可設定モードを使用するには、AWS アカウントの **アクセスキー ID** と **シークレットアクセスキー** が必要です。

#### 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Cloud** タブを選択します。
3. **Add integration** をクリックし、**Add a cloud integration** ウィザードを開きます。これが最初に追加するインテグレーションである場合は、この手順をスキップしてください。
4. **Amazon Web Services** を選択し、**Next** をクリックします。
5. インテグレーションのわかりやすい名前 (例: **my\_aws\_integration**) を入力し、**Next** をクリックします。
6. 設定モードを選択します。
  - **Account authorization** により、AWS 認証情報を提供した後、Red Hat がインテグレーションを設定および管理できるようになります。これは推奨される設定モードです。**Account authorization** を選択した場合は、**AWS Access key ID** と **Secret access key** を入力します。
  - **Manual configuration** を使用すると、Hybrid Cloud Console に AWS 認証情報を入力せずに、AWS インテグレーションを手動で設定および管理できます。次のステップで選択したサービスに応じて、ウィザードでは AWS アカウントで追加の設定が必要になります。
7. AWS に接続するサービスを選択し、**Next** をクリックします。



#### 注記

AWS インテグレーションの作成が完了したら、追加の Hybrid Cloud Console サービスに接続できます。ただし、設定モードとして **Account authorization** を選択した場合は、この手順で一度に複数のサービスに接続できます。

- **Cost management:** 手順は、[Amazon Web Services \(AWS\) インテグレーションの Cost Management への追加](#) を参照してください。
  - **Launch images:** 手順は、Red Hat Insights ドキュメントの [AWS アカウントの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#) を参照してください。
  - **RHEL management:** 手順は、[オプション 3: 高度な RHEL 管理](#) を参照してください。RHEL 管理バンドルを使用するには、Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。
  - **No application:** インテグレーションを追加し、後で Hybrid Cloud Console サービスを設定します。
8. ウィザードの手順に従い、前の手順でリストされた関連ドキュメントを参照して、そのサービスのインテグレーションの追加を完了します。

#### 検証

1. **Integrations** ページに移動し、**Cloud** タブを選択します。
2. AWS インテグレーションが一覧表示され、ステータスが **Available** であることを確認します。

## 3.2. MICROSOFT AZURE インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE

Microsoft Azure アカウントを Red Hat Hybrid Cloud Console の以下のサービスに接続できます。

## コスト管理

Microsoft Azure アカウントをコスト管理に接続して、クラウドのコストを追跡します。Cost Management Service を使用して、次のような財務関連のタスクを実行できます。

- リソースおよびコストの使用を可視化、理解、および分析
- 今後の消費を予測し、予算との比較
- リソースおよび消費の最適化
- 詳細な分析を行うための使用パターンの特定
- コストおよびリソースデータを活用できるサードパーティーツールとの統合

## RHEL 管理バンドル

Microsoft Azure アカウントを Hybrid Cloud Console の RHEL 管理バンドルに接続して、Microsoft Azure で既存の Red Hat 製品サブスクリプションを使用します。

RHEL 管理バンドルにより、パブリッククラウドに Red Hat 製品をデプロイメントするのに役立つ次のような追加機能へのアクセスが許可されます。

- Red Hat ゴールドイメージ: Microsoft Azure で Red Hat クラウドイメージを使用し、時間単位で支払う代わりに独自のサブスクリプションを持ち込むことができます。
- 高精度のサブスクリプションデータ: サブスクリプションサービスで正確なパブリッククラウドの使用状況データを表示できます。
- 自動登録: これにより、プロビジョニング時にクラウドインスタンスが console.redhat.com に自動的に接続できるようになり、Red Hat Insights サービスを使用できるようになります。



### 重要

RHEL 管理を使用するには、まず Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。

Microsoft Azure アカウントをインテグレーションとして追加するには、Hybrid Cloud Console のクラウドインテグレーションウィザードを使用して Azure Lighthouse に移動し、Red Hat アカウントと Microsoft Azure アカウントをリンクするカスタムテンプレートをデプロイします。

Azure アカウントでテンプレートをデプロイすると、RHEL 管理用の 2 つの Azure ロールが設定されます。

- **Reader:** このロールにより、Hybrid Cloud Console はすべてのリソースを表示できますが、変更を加えることはできません。このロールの詳細は、[Azure ドキュメント](#) を参照してください。
- **Managed Services Registration assignment Delete:** このロールにより、Hybrid Cloud Console インテグレーションを削除するときに承認のクリーンアップが可能になります。このロールの詳細は、[Azure ドキュメント](#) を参照してください。

Azure Resource Manager テンプレートの詳細は、Azure ドキュメントの [Deploy the Azure Resource Manager template](#) を参照してください。

Azure テナント ID レベルでクラウドアクセスを有効にして、そのテナントに属するサブスクリプション ID を自動的に有効にできます。あるいは、Azure インテグレーションを Hybrid Cloud Console に個別に追加することもできますが、Azure サブスクリプション ID によって個別に追加することもできます。

## Red Hat Insights のイメージ

Microsoft Azure アカウントに接続して、ハイブリッドクラウド環境で仮想マシンとしてカスタマイズされたイメージを構築および起動します。

このワークフローでは、すべての Red Hat サブスクリプションに含まれる Red Hat Insights イメージサービスを使用して、Microsoft Azure で Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムをデプロイおよび管理します。

### 3.2.1. Microsoft Azure アカウントのクラウドインテグレーションとしての追加

Microsoft Azure アカウントをクラウドインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続すると、Microsoft Azure データを Hybrid Cloud Console サービスで使えるようになります。Azure インテグレーションを追加した後、Hybrid Cloud Console の **Integrations** ページから Azure およびその他のインテグレーションを表示および管理できます。

#### 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- Hybrid Cloud Console で使用する Microsoft Azure アカウントにアクセスできる。
- Azure ユーザーアカウントに Red Hat サービスを使用するために必要最小限の権限がある。
  - RHEL 管理および起動イメージの場合、インテグレーションを作成するには、使用している Azure サブスクリプションに対して **Microsoft.Authorization/roleAssignments/write** パーミッションが割り当てられたロール (**Owner** など) を持つ、テナント内の非ゲストアカウントが必要です。詳細は、以下の Microsoft Azure ドキュメントを参照してください。
    - [Azure built-in roles](#)
    - [Deploy the Azure Resource Manager template](#)

#### 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Cloud** タブを選択します。
3. **Add integration** をクリックし、**Add a cloud integration** ウィザードを開きます。これが最初に追加するインテグレーションである場合は、この手順をスキップしてください。
4. **Microsoft Azure** を選択し、**Next** をクリックします。
5. **Azure\_build** など、インテグレーションにわかりやすい名前を入力し、**Next** をクリックします。
6. Azure に接続するサービスを選択し、**Next** をクリックします。



## 注記

Azure インテグレーションを作成した後、追加の Hybrid Cloud Console サービスに接続できます。Azure で使用するサービスによって、設定手順は若干異なります。

- **Cost Management** 手順は、[Microsoft Azure データの Cost Management への統合](#) を参照してください。
- **Launch images**: 手順は、Red Hat Insights ドキュメントの [Microsoft Azure アカウントの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#) を参照してください。
- **RHEL management**: 手順は、[オプション 3: 高度な RHEL 管理](#) を参照してください。RHEL 管理バンドルを使用するには、Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。

## 検証

1. **Integrations** ページに移動し、**Cloud** タブを選択します。
2. Azure インテグレーションが一覧表示され、ステータスが **Available** であることを確認します。

## 3.3. GOOGLE CLOUD インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE

Red Hat Hybrid Cloud Console で、Google Cloud アカウントを次のサービスに接続できます。

### コスト管理

Google Cloud アカウントをコスト管理に接続して、クラウドのコストを追跡します。Cost Management Service を使用して、次のような財務関連のタスクを実行できます。

- リソースおよびコストの使用を可視化、理解、および分析
- 今後の消費を予測し、予算との比較
- リソースおよび消費の最適化
- 詳細な分析を行うための使用パターンの特定
- コストおよびリソースデータを活用できるサードパーティーツールとの統合

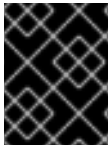
### RHEL 管理バンドル

Google Cloud アカウントを Hybrid Cloud Console の RHEL 管理バンドルに接続して、Google Cloud で Red Hat 製品のサブスクリプションを使用します。

RHEL 管理バンドルにより、パブリッククラウドに Red Hat 製品をデプロイメントするのに役立つ次のような追加機能へのアクセスが許可されます。

- **Red Hat ゴールドイメージ**: Google Cloud で Red Hat クラウドイメージを使用し、時間単位で支払う代わりに独自のサブスクリプションを導入できます。
- **高精度のサブスクリプションウォッチデータ**: サブスクリプションウォッチで正確なパブリッククラウドの使用状況データを表示できます。
- **自動登録**: これにより、プロビジョニング時にクラウドインスタンスが [console.redhat.com](https://console.redhat.com) に自動的に接続できるようになり、Red Hat Insights サービスを使用できるようになります。





## 重要

RHEL 管理を使用するには、まず Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。

## Red Hat Insights のイメージ

Google Cloud アカウントに接続して、ハイブリッドクラウド環境で仮想マシンとしてカスタマイズされたイメージを構築および起動します。

このワークフローでは、すべての Red Hat サブスクリプションに含まれる Red Hat Insights イメージサービスを使用して、Google Cloud で Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムをデプロイおよび管理します。

## アプリケーションなし

あるいは、Hybrid Cloud Console サービスに接続せずに Google Cloud インテグレーションを追加し、後で1つ以上のサービスを選択することもできます。

### 3.3.1. Google Cloud アカウントのインテグレーションとしての追加

Google Cloud アカウントをクラウドインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続すると、Google Cloud データを Hybrid Cloud Console サービスで使えるようになります。Google Cloud インテグレーションを追加した後、Hybrid Cloud Console の **Integrations** ページから Google Cloud およびその他のインテグレーションを表示および管理できます。

## 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- Hybrid Cloud Console で使用する AWS アカウントにアクセスできること。

## 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Cloud** タブを選択します。
3. **Add integration** をクリックし、**Add a cloud integration** ウィザードを開きます。これが最初に追加するインテグレーションである場合は、この手順をスキップしてください。
4. **Google Cloud** を選択し、**Next** をクリックします。
5. インテグレーションのわかりやすい名前 (例: **my\_gcp\_integration**) を入力し、**Next** をクリックします。
6. Google Cloud に接続するサービスを選択し、**Next** をクリックします。



## 注記

Google Cloud インテグレーションを作成した後、追加の Hybrid Cloud Console サービスに接続できます。



- **Cost Management**: 手順は、[Google Cloud データの Cost Management への統合](#) を参照してください。
  - **Launch images**: 手順は、Red Hat Insights ドキュメントの [Google Cloud Platform プロジェクトの Red Hat Hybrid Cloud Console への接続](#) を参照してください。
  - **RHEL management**: 手順は、[オプション 3: 高度な RHEL 管理](#) を参照してください。RHEL 管理バンドルを使用するには、Simple Content Access を有効にする必要があります。詳細は、Red Hat ナレッジ記事 [Simple Content Access](#) を参照してください。
  - **No application**: インテグレーションを追加し、後で Hybrid Cloud Console サービスを設定します。
7. ウィザードの手順に従い、前の手順でリストされた関連ドキュメントを参照して、そのサービスのインテグレーションの追加を完了します。

## 検証

1. **Integrations** ページに移動し、**Cloud** タブを選択します。
2. Google Cloud インテグレーションがリストされ、ステータスが **Available** であることを確認します。

## 3.4. ORACLE CLOUD インテグレーションと HYBRID CLOUD CONSOLE

Oracle Cloud アカウントを Red Hat Hybrid Cloud Console のコスト管理に接続して使用し、クラウドのコストを追跡できます。Cost Management Service を使用して、次のような財務関連のタスクを実行できます。

- リソースおよびコストの使用を可視化、理解、および分析
- 今後の消費を予測し、予算との比較
- リソースおよび消費の最適化
- 詳細な分析を行うための使用パターンの特定
- コストおよびリソースデータを活用できるサードパーティーツールとの統合

### 3.4.1. Oracle Cloud アカウントのインテグレーションとしての追加

Oracle Cloud アカウントをクラウドインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続し、Hybrid Cloud Console サービスで Oracle Cloud データを使用できます。Oracle Cloud インテグレーションを追加した後、Hybrid Cloud Console の **Integrations** ページから Oracle Cloud およびその他のインテグレーションを表示および管理できます。

現在、Oracle Cloud インテグレーションは Cost Management Service にのみ接続できます。

## 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- コスト管理に追加するコンパートメントにアクセスできる Oracle Cloud Console にアクセス可能。

## 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Cloud** タブを選択します。
3. **Add integration** をクリックし、**Add a cloud integration** ウィザードを開きます。これが最初に追加するインテグレーションである場合は、この手順をスキップしてください。
4. **Oracle Cloud Infrastructure** を選択し、**Next** をクリックします。
5. インテグレーションのわかりやすい名前 (例: **my\_oracle\_integration**) を入力し、**Next** をクリックします。
6. 接続するアプリケーションの **Cost management** を選択し、**Next** をクリックします。
7. ウィザードの手順に従い、[Oracle Cloud データの Cost Management への統合](#) を参照して、Oracle Cloud インテグレーションを Cost Management に追加します。

## 検証

1. **Integrations** ページに移動し、**Cloud** タブを選択します。
2. Oracle Cloud インテグレーションがリストされ、ステータスが **Available** であることを確認します。

## 第4章 HYBRID CLOUD CONSOLE への RED HAT インテグレーションの追加

Red Hat OpenShift Container Platform 環境をクラウドインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続すると、Hybrid Cloud Console 上の Cost Management Service が環境のデータを使用してクラウドコストを追跡できるようになります。

Cost Management Service を使用して、次のような財務関連のタスクを実行できます。

- リソースおよびコストの使用を可視化、理解、および分析
- 今後の消費を予測し、予算との比較
- リソースおよび消費の最適化
- 詳細な分析を行うための使用パターンの特定
- コストおよびリソースデータを活用できるサードパーティーツールとの統合



### 注記

Red Hat OpenShift Container Platform 4.6 以降では、OpenShift Container Platform Web コンソールから **costmanagement-metrics-operator** をインストールしてください。詳細は、[Cost Management への OpenShift Container Platform データの統合](#) を参照してください。

### 4.1. OPENSIFT CONTAINER PLATFORM インテグレーションの追加

Red Hat OpenShift Container Platform 環境をインテグレーションとして Red Hat Hybrid Cloud Console に接続すると、Cost Management で OpenShift Container Platform データを使用できるようになります。インテグレーションを追加した後、Hybrid Cloud Console の **Integrations** ページから OpenShift Container Platform およびその他のインテグレーションを表示および管理できます。

#### 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- Hybrid Cloud Console で使用する OpenShift Container Platform 環境にアクセスできる。

#### 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Red Hat** タブを選択します。
3. **Add integration** をクリックしてインテグレーションウィザードを開きます。これが最初に追加するインテグレーションである場合は、この手順をスキップしてください。
4. **Red Hat OpenShift Container Platform** を選択し、**Next** をクリックします。
5. インテグレーションのわかりやすい名前 (例: **my\_ocp\_integration**) を入力し、**Next** をクリックします。
6. アプリケーションとして **Cost Management** を選択し、**Next** をクリックします。

7. **costmanagement-metrics-operator** をインストールして設定するには、ウィザードの手順を使用して、**Next** をクリックします。詳細は [OpenShift Container Platform データの Cost Management への統合](#) を参照してください。
8. **Cluster Identifier** を入力し、**Next** をクリックします。
9. インテグレーションの詳細を確認し、**Add** をクリックしてインテグレーションの追加を完了します。

## 検証

1. **Integrations** ページに移動し、**Red Hat** タブを選択します。
2. OpenShift Container Platform 統合が一覧表示され、ステータスが **Available** であることを確認します。

## 第5章 HYBRID CLOUD CONSOLE でのインテグレーションの管理

**Integrations** ページから、インテグレーションの編集、データ収集の一時停止または再開、もしくは Hybrid Cloud Console からの既存インテグレーションの削除を実行できます。

### 前提条件

- Organization Administrator または Cloud Administrator 権限を持つユーザーとして Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- Hybrid Cloud Console にクラウドまたは Red Hat インテグレーションがある。

### 手順

1. **Settings > Integrations** に移動します。
2. **Cloud** タブまたは **Red Hat** タブで、編集するインテグレーションを見つけます。
3. インテグレーションの横にあるオプションアイコン (⋮) をクリックし、次のタスクのいずれかを選択します。
  - **Pause**: 接続されている Hybrid Cloud Console サービスのデータ収集を一時的に無効にします。インテグレーションが現在一時停止している場合は、**Resume** をクリックすると、接続されているサービスのデータ収集を続行します。
  - **Remove**: インテグレーションと収集されたすべてのデータを Hybrid Cloud Console から完全に削除します。
  - **Edit**: Hybrid Cloud Console でインテグレーションの詳細を表示し、インテグレーション設定を変更します。インテグレーションの名前の変更、その可用性の確認、追加のサービスの接続、設定の編集、接続されているサービスの削除を行えます。

### 検証

- **Integrations** ページに移動し、必要な変更が加えられていることを確認します。

## 第6章 クラウドインテグレーションの参考資料

Red Hat Hybrid Cloud Console のサービスでインテグレーションを使用する方法の詳細は、以下のリソースを参照してください。

### コスト管理

- [Cost Management スタートガイド](#)

### RHEL 管理バンドル

- [オプション 3: 高度な RHEL 管理](#)
- [ゴールドイメージについて](#)
- [サブスクリプションサービスのスタートガイド](#)

### Red Hat Insights のイメージ

- [ハイブリッドクラウドでの RHEL システムのデプロイおよび管理](#)
- [RHEL イメージを起動するためのインテグレーションの設定](#)

## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、用語の置き換えは、今後の複数のリリースにわたって段階的に実施されます。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見や感想をお寄せください。ご要望に対応できるよう、できるだけ詳細にご記入ください。

### 前提条件

- Red Hat アカウントを持っている。
- Red Hat アカウントにログインしている。

### 手順

1. フィードバックを提供するには、[Create Issue](#) のリンクをクリックします。
2. **Summary** テキストボックスに、問題または機能拡張に関する説明を入力します。
3. **Description** テキストボックスに、問題または機能拡張の詳細を入力します。
4. Red Hat ユーザー名が **Reporter** テキストボックスに自動的に表示されない場合は、入力します。
5. ページの一番下までスクロールし、**Create** ボタンをクリックします。ドキュメントの問題に関するチケットが作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。

フィードバックの提供にご協力いただきありがとうございました。